

小型の分娩監視装置

医療機器製造のメロディ

・インターナショナル（高松市）はICT（情報通信技術）を活用して妊婦の健康状態を把握できる小型の分娩監視装置の販売を始め。胎児心拍計と子宮収縮計（陣痛計）で母胎データを測定し、遠隔にいる産科医らが異変の予兆把握などができる。このほど医療機器として国の認証を取得。医療機関向けに販路を開拓

メロディ・インタ

ICTで妊婦の健康把握

する。

妊婦の腹部に手のひらサイズの胎児心拍計などをベルトで固定し、専用のタブレットで波形を記録する。

型装置のモバイル化、小型化を目指し開発。代理店などを通じた販売価格は、一般的な据え置き型の百数十万円の半分程度に抑えられる見込み。

ネット経由で産科医らがパソコンやスマートフォンで閲覧する。島しょ部など妊婦の健診による通院負担を減らし、入院中の妊婦の夜間の体調把握などでは医師の負担も緩和できる。

同社は一般的な据え置き

2017年から奄美大島（鹿児島県）や小豆島（香川県）の病院で機能確認やデータ送信の臨床テストを実施。このほか、国際協力機構（JICA）の事業で医療体制構築が遅れているタイの都市郊外の病院に納入するなど、海外でも運用実績がある。